

教えて!

電力自由化 ④

料金はどうやって決まるの？

「関西電力より最大5%割安」「ガスとセットで電気代がお得に！」

4月からは家庭向けの電気料金が自由に決められるようになり、新規参入の事業者は、大手電力より安い料金プランをこぞって打ち出している。ただ、各社がねらうのは電気をたくさん使う世帯。この層の割引率は手厚いが、電気をあまり使わない世帯は、そんなに「お得」にならない。

その理由は、今の料金の仕組みにある。大手電力の現行料金は電

気を使う量が多いほど単価

が上がる。この単価は3段階に分かれ、東京電力の場合、安い単価と高い単価に1・5倍の開きがある。

大手各社はこれまで、発電にかかると費用に一定の利益を上乗せする「総括原価方式」という手法で料金を算出し、国の認可をもらってきた。同じ電気なのに使うほど料金の単価を高くしているのは、割高に設定することで節電を促すねらいから。逆に、使う量が少ない部分の単価を抑えているのは、節約せざるをえない低所得者への配慮がある。

大手からすると、今でも

新規参入組のプランは電気を使うほど「お得感」が高まる

電気の消費量	1kWhあたり単価		
	1kWh~ 120まで	121~ 300まで	301~
東京電力 (現行料金)	19.43円	25.91円	29.93円
JX エネルギー (エネオスでんき)	20.76 (+7%)	23.26 (-10%)	25.75 (-14%)
東急パワー サプライ (40%以上の 場合)	19.41 (-0.1%)	25.88 (-0.1%)	28.43 (-5%)

1kWhあたり単価。カッコ内は東電の単価との比較。東電とJXは基本料金が同じ。東急は契約アンペアに応じて基本料金を4.8~9.6%割引

kWh(キロワット時)とは?



$$100\text{W} \times 10\text{時間} = 1\text{kWh}$$

電気の消費量を表す単位

節電や節約に努める世帯は採算が厳しいが、契約者全体で利益が出るようになっていく。東電幹部は「電気をとたくさん使う世帯から料金を多めに取ってカバーしている」と説明する。新規参入の事業者は、大手の料金体系に近い仕組みを導入し、単価が高い部分

の価格を大手より割安にしている。例えば、石油元売り最大のJXエネルギーは、単価を東電より最大14%安くした。東京ガスは同じく13%割り引く。大手が利益の源泉としてきた部分を削り、「お得感」を演出しているわけだ。その結果「節電を促す」といういまの料金体系の理念は薄らいだ。携帯電話会社や鉄道会社など他の参入組も事情は同じ。本業のもうけを値引きの「原資」に充てて、お得感を強めている会社もある。売る側からすると、電気をたくさん使う家庭から得る利益を削るので、電気をあまり使わず、採算が合わない家庭への営業に乗り気でない事業者もいる。参入組のある幹部は、こうした世帯にはあまりメリットが出ないようにして「大手から乗り換えにくくしてある」と明かす。

日本消費者協会の松岡萬里野理事長は、「単身や節電に努める世帯は恩恵が乏しく、新プランにあわせて切り替える必要はない。契約先が事業撤退することもありうるので、経営がしっかりしているかどうかも確認して」と話す。(米谷陽一)